

平成23年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ サカモト トクヤ
氏名 坂本 徳弥

研究期間 平成23年度

研究課題名 教育実習事前指導内容の改善

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	坂本 徳弥	教育学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

教育学部として、各学校への教育実習依頼を始めてから3年目になる。昨年は「教育実習要項」が全学教職課程委員会として作成され、実習校に対して依頼する内容（実習生をどのように指導していただきたいか）のガイドラインが定まった。しかし、実習生が実習校で実際に何を学び、大学の事前指導がどのように役だっているかの検証はまだ行われていない。

そこで、3年間における教育実習の成績、教育実習ノート、学生の事後報告書を分析することで、実習生が実習校で何を学んだか、また大学の事前指導がどのように役だったかを検証する。その結果をもとに、教育実習の事前指導のさらなる改善を図って行きたい。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

4～6月 昨年度の実習ノート、事後報告書の分析
7～8月 今年度の実習ノート、事後報告書の分析
8～10月 2009～2011年度の実習の成績を比較し、分析する。
11～12月 学生が実習校で学んだこと、大学の事前指導がどのように役だったかを明らかにし、事前指導の改善点を洗い出す。
1～2月 実績報告書の作成、提出
2月18日 「教育と時間研究会」において口頭発表

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

教育学部としての教育実習が3年目を迎えたのを契機に、実習校における学生の学びの実態について検討した。

1. 教育実習ノートの記述内容の検討

2011年度に小学校で教育実習を行った学生61名の教育実習ノートの記述内容を検討した。

第1に、実習校における学生指導の熱心さが伝わってきた。「週予定表の細かさ」「日誌へのコメント」「授業記録に対するコメント」「指導案に対するコメント」「学生の指導案のレベル」「講話の量」から実習校による学生指導の熱心さを得点化したところ、実習校により差があることがわかった。しかし、どの実習校も大学が求めている以上の指導をして下さっているので実習校の先生方には感謝申し上げるのみである。

第2に、教育実習において学生たちが学んだことや気をつけるべきことが明らかになった。これらは教育実習のガイドブックとしてまとめ、今後の事前指導に役立てていきたい。

2. 教育実習の成績の変化

実習校における学生の教育実習の評価基準は、A:すぐれている、B:標準、C:劣っている、となっている。筆者が「事前及び事後指導」(年間8回の授業)を担当した小学校実習における成績のA評価の人数の割合は次の通りであった。ただし、教育実習2年目(2010年度)と3年目(2011年度)は4人の教員で協力して担当した。A評価の人数の割合は、2009年度68%、2010年度49%、2011年度54%となり、2009年度の成績がよかった。2009年度と2010、2011年度の大きな違いは、「事前及び事後指導」の授業において指導案作成の個別指導を実施したかどうかであり、2009年度は実施し、2010、2011年度は実施しなかった。指導案作成力を高めることが学生の教育実習評価の向上につながると考えられる。個別指導は通常授業より2倍以上の時間と労力が必要であり実施は困難であるが、「事前及び事後指導」や「模擬授業演習」の授業を充実させることにより指導の徹底を図っていききたいと考える。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 教育実習	②事前及び事後指導	③ 小学校	④
--------	-----------	-------	---

5. 研究成果及び今後の展望

学生達の教育実習ノートの記述内容を検討した結果、教育実習において本学の学生たちが学んだことや気をつけるべきことが明らかとなったので、教育実習のガイドブックを作成し、今後の教育実習事前指導に役立てていきたい。

また、今回の研究結果から、指導案作成力を高めることが教育実習の成績向上に役立つことがわかったので、学生への指導を徹底していきたい。すなわち、筆者が担当する「事前及び事後指導」や「模擬授業演習」の授業をさらに充実させることにより、学生たちの指導案作成力を高めていきたい。

なお、今回の研究結果は、以下の研究会で口頭発表した。

坂本徳弥「教育実習事前指導内容の改善」教育と時間研究会第24回研究会

2012年2月18日(口頭発表) 於: キャンパス・イノベーションセンター東京